

# 『若手教員と ともに 育つ』 概要版

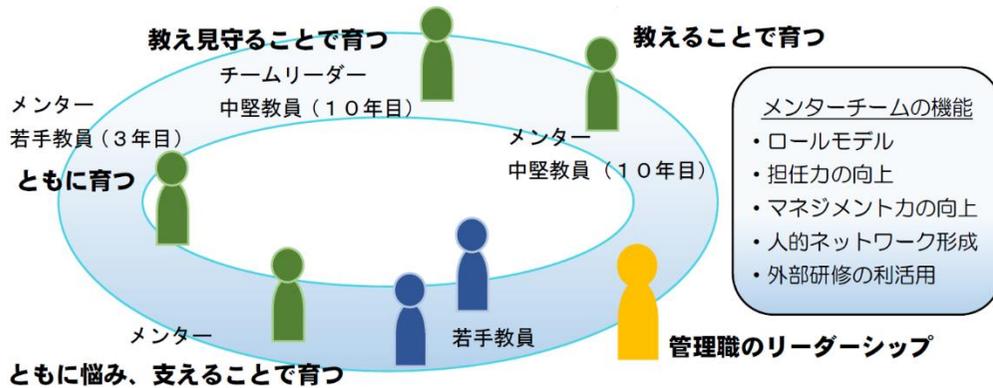
## 相手理解に基づくOJTの推進へ

- 周りから進んで声かけをしましょう。
- 職員「みんな」でフォローしましょう。
- 一人一人のよさや努力を認め合いましょう。



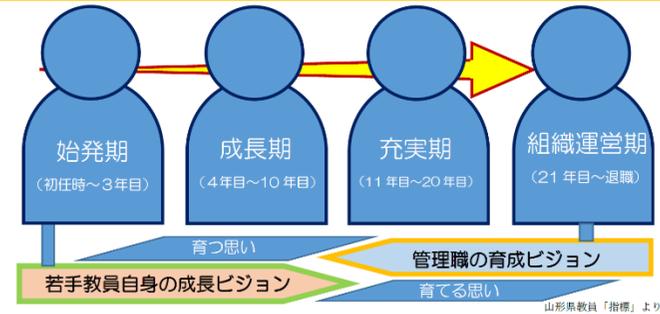
## メンターからメンターチームへ

- 職務上のアドバイザーやサポーター等、多面的な要素を求められます。
- 複数のメンターがチームとなって対応することが必要です。
- 2・3年目の大切な成長期間についても、同僚として、ともに成長し続けていくことも目指していきましょう。

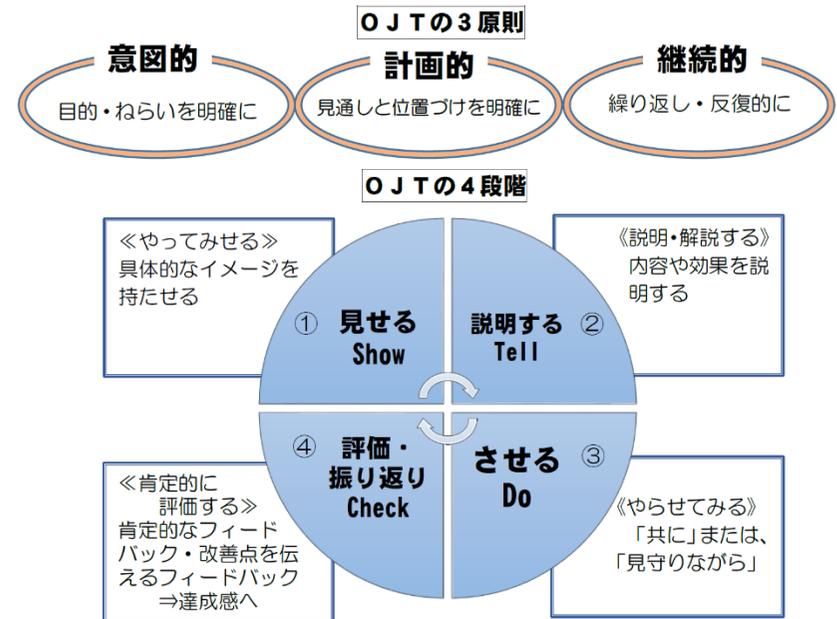


メンターチームが意識したいこと	
<b>若手教員の自己効力感を引き出そう</b> やる気がわいてくる具体的な場面例です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達の成長を実感するとき</li> <li>・周りの教員から仕事を認められたとき</li> <li>・仕事の意義を理解して取り組んでいるとき</li> <li>・小さな目標（明確なゴール）を決め、小さな成功体験を積み重ねているとき</li> <li>・仕事の達成感があるとき</li> <li>・意見を尊重してもらえるとき</li> <li>・できた自分を、自分で褒めてあげるとき</li> </ul>	<b>チームリーダーが情報の整理をしよう</b> チームの複数の教員が、良かれと思って伝えたアドバイスによって、逆に「どのアドバイスを取り入れればよいのかわからない…」という若手教員の混乱を招く場合があります。そんな若手教員の悩みや本音に寄り添いながら、指導や助言の質と量を調整しましょう。 また、何が育成の重点なのか、今は何を目標にしているのか共有し、定期的にチームで確認し合ひましょう。

## 若手教員の想いを大切にしながら



## みんなが育つOJTへ みんなで理解、メンターチームで重点実践



## 助けを求めやすい職場づくり

- 仕事は協働するもの、組織として成果を達成していくものです。
- 職場全体で、互いに助けを求めやすい職場づくりに努めましょう。